



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/31 (月)	+ 200	▲ 300	▲ 100		CP等買入 ▲ 2,200 社債等買入 ▲ 200 国債補充供給 + 23,900	CP等買入 + 4,000	日: 外国為替平衡操作の実施状況 (9/29-10/27) 欧: ユーロ圏CPI (10月) 欧: ユーロ圏GDP (3Q)
11/1 (火)	トン	▲ 23,000	▲ 23,000	国債証券償還 (2年)			米: FOMC
11/2 (水)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000	国債発行 (10年) 税保険揚げ 普通交付税交付金			日: 日銀MPM議事要旨 (9/21・22分) 日: マネタリーベース (10月) 米: FOMC、FRB議長記者会見 米: ADP雇用統計
11/3 (木)				祝日 (文化の日)			米: 新規失業保険申請件数 (10/29終了週) 欧: ECB総裁講演 欧: ユーロ圏失業率 英: 政策金利公表
11/4 (金)	トン	トン	トン				米: 雇用統計 (10月) 欧: ECB総裁講演 欧: ユーロ圏PPI (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初491兆9,600億円から始まった。今週は連日の国債買入オペ、26日の国庫短期証券買入オペ等増加要因が多く見られたが、例年より大きい財政資金の揚げがあり、週末は494兆5,900億円週初対比で小幅の増加にとどまった。無担保コール市場では、週前半ビッドが先週に比べ少なく、ON物加重平均金利は低下し26日に△0.060%となった。週後半は大手行を中心にビッドが厚くなり、週末28日は△0.052%まで上昇した。ターム物では1W~2W物を中心に、△0.060%程度の水準で出合いが見られた。ターム物では1W~2W物を中心に、△0.060%程度の水準で出合いが見られた。27日・28日に行われた日銀金融政策決定会合では、現状の金融緩和方針の維持が決定されたほか、ETFの銘柄別買入れ方法の見直しが発表された。来週の主な予定は、国内では外国為替平衡操作の実施状況の公表 (31日)、9月21日・22日の日銀金融政策決定会合議事要旨の公表 (2日) などが、海外では10月のユーロ圏CPIや3Qのユーロ圏GDPの公表 (31日)、米FOMC (1日・2日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初△0.08%近辺から始まった。以降は△0.09%~△0.085%で推移し、月末初物となる週末は△0.09%台が出合いの中心となった。SC取引は2年435~441回債、5年146~154回債、10年350~368回債、20年171~182回債、30年65~76回債、40年9~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆9,900億円で、週間償還額 (約2兆400億円) を下回った。発行市場は、石油や鉄鋼を中心に幅広い業態で発行が実施され活況であった。発行残高は先週末時点の26兆1,244億円から27日時点で26兆3,476億円に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。12日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円でおファーされた。結果は、按分レート0.001% (前回0.001%)、平均落札レート0.012% (前回0.006%) と平均落札レートが前回比で上昇した。来週の週間償還額は、約2,000億円となっている。発行市場は、営業日数が少なく、償還も少ないため、落ち着いた展開を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

27日の3M1117回債の入札は、最高落札利回り△0.1265% (前回債△0.1358%)、平均落札利回り△0.1381% (前回債△0.1492%) と前回債に比べ上昇する結果となった。来週は4日に3M (1118回) の入札がある。